

# すぎなみにほんごかいわの会 杉並日本語会話の会

号外 2014年10月

毎週 火曜日 90分 個人授業  
(午前・午後2部制)

連絡先: 有馬 TEL 090-8489-4452 <http://suginaminihongokaiwa.blog.fc2.com/>

## 創設10周年記念

## 座談会



### 会の主な経過

- 2004/10 会の創設
- 2006/5~ 午前クラスに加え、午後クラス開設
- 2007/1~ 会の「ニュース」発行開始
- 2007/4~ 杉並社協補助金始まる
- 2011/11~ ブログがスタート

「杉並日本語会話の会」が、今年10月で10周年を迎えました。  
そこで、会の創設に携わった3人に振り返ってもらいました。

— 日本語を勉強する人が、普通の日本人と個別に話せるチャンスをつくる、という活動を平日に開設したのが10年前。母体となった土曜クラスの方たちからも多くのバックアップを受けつつ、実質4人でスタートしたそうですね。

有馬: 活動の初日、来るはずの学習者を待っていましたが、誰も来ませんでした。

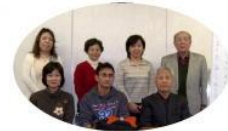
田坂: 初めての学習者が来たのが10月20日、3人でした。

有馬: そこで、周辺の日本語学校や英語学校にピラくばりをして、必死で学習者を集めました。

田坂: 口コミで段々増え、半年後の翌年の5月ごろには盛況になりました。その後、午後クラスを

開設。午前・午後の2部制となり、学習者が増えていきました。また、補助金を受けるようになって、歌舞伎鑑賞教室や和服の着付けなどのイベント活動も増えていきました。

有馬: 2011年からブログがスタートすると、ブログを見てくる人が増えました。ブログの効果は大きいですね。



▲2004/10/20創設直後



— 10年を振り返るといろいろなことがあったことと思います。存続の危機などありましたか？

有馬: それは、2011年3月の震災のときですね。学習者本人は帰りたいのだけれど、本国から「帰れ」と言われて、「放射線を浴びて死んだ人が東京を歩いているそらだ」とも言われました。

山田: 「日本が沈没する」とかね。何も言わないでさっさと帰った人もいました。取るものも取りあえず帰ったあとで、一度挨拶に戻ってまた帰った人もいました。一時、大阪に避難した人もいました。

有馬: いま、最大の課題は財政問題です。きょうの様子をみても、登録者は午前が15人、午後が15人。会議室を2部屋用意しなければなりません。ところが、どうしても欠席者が出る。きょうも出席は半分。会場費に倍の費用がかかるんです。本当に中途半端。頭の痛い問題です。会場費については、いま、会議室の利用料の軽減措置について、関係先に要望しているところです。どこか、安く貸してくれるところがあるといいのですが。

— この会は学習者とボランティアとがマンツーマンでやっています。これには、有馬さんが本当に苦労されています。

山田: 組み合わせだけでなく、出欠の連絡も取って、学習者が欠席の場合にはボランティアに代わってよいと連絡までして。

田坂: それが、会の運営がうまくいっている大きな要素といえますね。

— 学習者はいま、何人ですか？

有馬: 初めの学習者をNo.1と数えると、502人。

田坂: 502人のうち、長い人は2年くらい、日本語学校の2年間ずっとくる人もいる。大学院も2年、専門学校も2年。学習者にはおおむね感謝されてきたと思います。日本語の試験のサポートをしたり、進学・就職の相談もある。10年の蓄積があるから、帰国しても近況をmail交換したり、再来日したときに、日本のお父さん、お母さんに会いに来てと言って、寄ってくれる人も何人かいる。

有馬: ありがたいですね。

山田: 来日する前は日本が嫌いと言っていた人も好きになってくれたり、時の推移に伴う変化もたくさんありました。 (10/7)